

皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。当総領事館は、2028年に日本とカナダが修好 100 周年を迎えることも念頭に、2026 年も引き続き、管轄州との絆を一層強固にするため、力を尽くしていく所存です。

先月初めの報道によれば、Fred la marmotte が今年の春は早く到来すると告げたそうです。公式サイトによると、予測が当たる確率は 75% ということで、特に今年はフレッド君の見通しが的中することをお祈りしたいと思います。

●モンテリオール市長主催新年賀詞交換会

1月21日、ソラヤ・マルティネス・フェラーダ・モンテリオール市長主催の同市庁舎での新年会に参加しました。同市長との懇談の際に、同市による毎年8月の広島平和記念式典開催に謝意を述べると共に、広島市との姉妹都市関係が2028年には30周年を迎えること、また、同じ年に、日本とカナダが修好100周年を迎えること、モンテリオール市立植物園の日本館・日本庭園では日本文化を紹介する活動が活発に行われていることについて言及しました。



Photo @Ville de Montréal_Sylvain Légaré

●茶道裏千家淡交会モンテリオール協会主催「初釜」

2月1日、恒例の茶道裏千家淡交会モンテリオール協会の初釜に参加しました。雪に覆われた日本庭園に、それでも力強く光を注ぐ太陽の心地良い暖かさを感じながらの今年初めてのお茶会でした。いつも通りの、淡交会の方々的心温まるもてなしと、一糸乱れぬチームワークでの茶道デモンストレーションに感銘を受けました。モンテリオールにおける茶道普及活動により、昨年外務大臣表彰を受賞された淡交会の皆様の日ごろからのご尽力に感謝いたします。



●ケベック州政府主催新年会

2月3日、ケベック市にて、総領事団を対象とした恒例のルソー州首相主催新年会が開かれました。昨年同様、ケベック州の多くの要人の方々が出席され、同首相夫妻、スキート国際関係大臣、ロワ議会議長、マルシャン・ケベック市長などと、日本との関係について意見を交わすことができました。また、国際関係、高等教育、自然資源・森林、農業・水産、文化等について、いずれも州の大臣が現状や政策をレクチャーしてくださいました。この有意義な行事を主催して下さったケベック州国際関係省等ケベック州政府・議会の方々に感謝します。



●ケベック州におけるマンガ・アニメ・ビデオゲーム等の祭典

モントリオール市では20年にわたりオタクソンが、ケベック市では15年にわたりナデシコンが開催されています。1月29日に、オタクソンのLatour 共同会長、Baroud 共同会長、Fouillé 実行委員長、Hirai 日本ゲスト担当部長に、2月10日には、ナデシコンのServant 運営会長にお会いしました。日本のポップカルチャーに焦点を当てた両行事とも、年々人気が高まり、来場者も増加傾向にあるようです。それぞれの行事とも、長きにわたり、会長以下、すべて現地ボランティアの方々によって支えられていることにいつも感銘を受けています。今年は、ナデシコンは4月に、オタクソンは8月に開催されると伺っており、今年も多く日本の文化ファンが訪れることを期待します。

●日本政府プログラム元参加者の交流会

2月19日、JETプログラム、国費留学生制度、「カケハシ・プロジェクト」等、日本政府プログラムへの元参加者の方々の交流会を開催しました。これらのプログラムを通じて、日本とカナダ間の交流に関わられてきた皆さんの貴重な体験談を伺う機会となりました。引き続き両国の架け橋として、ますますのご活躍を期待します。

(注) 対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」

北米地域の優秀な青年を対象に、日本に対する関心と理解を向上させ、また、プログラム経験をいかした活動をしてもらうことで、親日派・知日派を発掘・育成し、我が国の外交基盤を拡充することを目的とした事業。参加者の専門性、関心分野に沿って、政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策等に係る対日理解を促進し、参加者からの対外発信の強化を図る。



●茶道裏千家淡交会ケベック協会主催「初釜」

2月22日、茶道裏千家淡交会ケベック協会による初釜が行われ、高久首席領事が出席しました。裏千家淡交会ケベック協会は、ケベック市において16年に亘り茶道をとおした日本文化の理解促進や日ケベック交流に貢献しています。淡交会メンバーによる見事なお手前をとおして、客として参加した地元ケベックの方々にも日本文化の奥深さを知って頂く機会となりました。

●ケベック・日本・ビジネスフォーラム (QJBF) 新年会

2月25日、ケベック・日本・ビジネスフォーラム (QJBF) の新年会が開催され、挨拶をさせていただきました。降雪の激しい日であったにもかかわらず、様々なセクターで日本に関わる100人を超える方々が来場し、また、アナイス・エングイエン会長からは、昨年11月の「カケハシ・プロジェクト」を通じた日本訪問についても言及があり、新年会は賑わいを見せました。

(注) 対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」(上記)



●Montréal en Lumière

3月7日まで、今年で26年目となる Montréal en Lumière という、食文化、音楽、演劇、イルミネーションなどの祭典が開催されました。その枠内で、2月25日、当地のレストラン・ホテル業等における人材育成をするケベック州立専門学校 (ITHQ) と、宮城調理製菓専門学校が協力して、同校から訪加された日本料理専門の調理師の方々が、ITHQ の生徒に講義を行い、また、ITHQ 付属レストランで日本食を提供することとなりました。右レストランは連日満席になるなど、地元の方々の日本食に対する人気度と深い関心を実感しました。



日本の食文化の紹介に大きく貢献されている ITHQ と、遠路、日本食の魅力を披露しに来ていただいた宮城調理製菓専門学校の方々に深く感謝を申し上げます。

●モントリオール日本商工会との新年賀詞交換会

2月27日、恒例のモントリオール日本商工会等との新年賀詞交換会を開催しました。本年は、日本と

ケベックの経済関係に携わる方々の間で交流を深める機会とする趣旨で、新たな試みとして、同商工会に非加盟の日本企業、投資に関するケベック州政府の公的機関であるインベストメント・ケベック、上記 QJBF 関係者もお招きしました。近く、在京ケベック州事務所に経済参事官として赴任される予定のジョアニ・ルルー＝コテ氏にも出席いただき、当地日本企業の方々と交流いただく機会となりました。当総領事館は、日本企業支援をはじめ日本とケベックの経済関係深化に引き続き務めて参ります。



*上記の他にも、日本やカナダの様々な方や団体の関係者と意見交換などを行うことができ、大変有意義な期間でした。

*本メッセージは仏・英語にても、メルマガ読者に配信しています。